

「フェイクニュース」 4月号 ～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

私たちは日々、テレビや新聞、雑誌、インターネットの記事など、多くの情報に囲まれて生活しています。すべての情報が正しければよいのですが、中には「フェイクニュース」と呼ばれる虚偽の情報もあります。

今年元日に発生した能登半島地震では「地震で家が崩れ家族が下敷きになっている」「息子が挟まって動けない。助けて」などという虚偽の投稿もあり、消防や警察などに問い合わせが殺到し、救助活動の妨げになることも増えてきたそうです。みなさんは、こんな投稿を見たら、どのような対応をしますか。

日本では、災害時に数多くの偽情報が流されることが多いと言われています。6年前の北海道地震では、地震後「6時間後に震度7

がくる」などといった情報がインターネットを中心に広がり、被災者を不安にさせました。これらの投稿は、具体的な表現で訴えかけたり、興味・関心を引くような内容であったり、それを信じた人が救助活動の手助けになればと「広めたい」と思えるような仕掛けで巧妙につくられています。善意で広げた情報がかえって活動の妨げになったり、差別に加担して人を傷つけたりすることもあります。

能登半島地震の事例では、X(旧ツイッター)の仕様変更に伴い、投稿の表示回数によって収益が得られるようになり、愉快犯や他者を攻撃することを目的とした従来のデマに加えて、回数を稼ぐためとみられる虚偽投稿が見られるようになったことが特徴です。

ネット上で誰もが情報を発信でき

る現在、デマの発生を防ぐことはできません。情報やうわさをうのみにして誤った情報を拡散させないためにも「その情報は、本当だろうか」と疑問を持つことが大事ではないでしょうか。

